

平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

「子どもたちの豊かな育ちと確かな学びの実現に向けて」

取組事業名

- ・大槌町子どもセンター ・吉里っ子スクール
- ・土曜日・季節学びの場 ・交通安全保安員配置事業
- ・「ふるさと科」の推進を中心とした学校支援コーディネーターの配置 ・ふるさと大槌学講座

岩手県大槌町

学校名

- 大槌学園（小学部・中学部）
- 吉里吉里学園（小学部・中学部）

※該当する内容に○

活動内容

	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
学校支援	○			○	○
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
	○	○	○		
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
地域課題に応じた額習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
			○	○	○

取組概要

【大槌町子どもセンター・吉里っ子スクール（放課後子ども教室推進事業）】 対象：2～6年生（吉里吉里地区は1～6年生）

仮設住宅等の生活環境において、教科書やノートをのびのび広げて学習できない子どもたちの学習の場や活動の場を保障する。また、居場所づくりにとどまらず、豊かな育ちや確かな学びの実現を図るために体験活動プログラム等を作成し子どもたちが「育つ場」としての機能の充実を図る。

【活動事例】 書道教室の開催 ヴァイオリン教室の開催 支援団体の協力による体験教室の開催  
日本漢字能力検定協会と連携して進める「大槌検定」への挑戦等

【土曜・季節の子ども学びの場】 対象：3～6年生（吉里吉里地区は1～6年生）

土曜日と夏・冬・春の長期休業中に学習の場や活動の場を保障し、学習活動プログラムを作成して子どもたちの豊かな育ちの実現を図る。

○土曜学びの場の開設（毎月第2、4曜日） 場所「大槌臨学舎」

【活動事例】 宿題を中心とした復習と予習リクルート社と連携した「勉強サプリ」を活用した学習等

○長期休業における季節の子ども学びの場の開設 場所「大槌臨学舎」「吉里っ子スクール」

【活動事例】 個々で学習計画を立て、自分のペースで主体的に学ぶ

学びの例 10:00～宿題⇒10:40～大槌検定挑戦⇒11:00～教育長テスト・勉強サプリ

【学校支援コーディネーターの配置】 配置2名

学園と地域を結びつける役割を担う。特に「ふるさと科」の推進において、地域参加型の学びの充実を図る。

【活動事例】 「ふるさと科」への地域住民（「地域の先生」「学習ボランティア」）の参画へのコーディネート、職場体験学習実施のコーディネート 等

【交通安全保安員の配置】

通学路に交通安全保安員を配置し、子どもたちの登下校の安全確保を図る。また、「見守る」活動だけでなく、子どもの様子で気づいたことや安全に関して気になったことを学園と共有し、その改善にあたる。

【ふるさと大槌学講座】

郷土を愛し、親しみを深めるための学習機会としての講座を実施。



「大槌臨学舎」での「勉強サプリ」を活用した学習



「地域の先生」による「ふるさと科」の学習

# 平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

## 事業成果

### 【大槌町子どもセンター・吉里っ子スクール（放課後子ども教室推進事業）】

地元の人材と NPO の協力により設置が継続されている。吉里っ子スクール登録数（特に 5 年生）が増加しており、放課後の居場所づくりにとどまらない、学力の向上や豊かな体験の場としての期待が高まっている。

年度	H26 年度	H27 年度
利用申し込み人数	42（3月現在）	51（11月現在）
利用率 利用人数/全校生徒数	4.2%（42/99）	6.0%（51/85）

### 【土曜・季節の子どもの学びの場】 対象：3～6年生（吉里吉里地区は1～6年生）

長期休業の学びと場として開設することにより、進んで学習に取り組む意識付けが図られている。特に個々で取り組みの計画を立てることが効果的であった。また、1日の終わりに、「課題」ではなく「出来たこと」「わかったこと」といったプラス面の感想を記入することにより、学習意欲に合わせ、自己肯定感を高める活動を始めている。

### 【学校支援コーディネーターの配置】 配置 2 名

学校支援コーディネーターのコーディネートにより、地域住民の学園に関わる人数が増加している。

H26 年度 29 名 H27 年度 33 名（11 月比較）

#### 「地域の先生」「学習ボランティア」の感想より

- 生徒さんの明るい笑顔と喜びの声に、この年齢で一番の感動を味あわせていただきました。自分自身が本当に良かったと自分に自信を持たれた 1 日でした。（83 歳・女）
- 自分が子どもの頃に普通に体験してきたことが今の子どもにとっては初めての体験と聞き驚きました。どの子ども目がキラキラしているのを見て、我々も元気を貰えました。質問は？と問いかけると恥ずかしがらずに手を挙げ質問し、回答を聞くとお礼をしっかりとっていました。子どもたちの前向きな姿は大槌の宝です。（30 歳・男）
- 震災前から見守り隊として子どもたちと接してきましたが、もっと中身の濃い、今だからこそやらなければならない活動だと思いました。大槌の自然を肌で感じ、「生き方」を町で働いている方々から学び、将来、必ず大槌の再生に関わってくれるだろう子どもたちの成長を学校、保護者、地域が一体となり育てていかなければと思うのです。（54 歳・女）

### 【交通安全保安員の配置】

子どもたちの登下校を「見守る」活動だけではなく、子どもの様子で気づいたことや安全に関して気になったことを学園と共有し、その改善にあたることにより子どもたちの交通安全への意識が高まっている。 H27 年度登下校時の事故発生件数 0 件

#### 交通安全保安員の日記より

- 朝 8 時頃、雨で中学生が自転車でびっしょり濡れながらの登校でした。また、傘をささない小学生あり。聞くと台風の時こわれたので無いとのこと。家庭で気を付けてほしいと思った。（大槌学園横断歩道担当）
- 部活後の自転車のライトがつかない生徒 1 台あった。また、送迎の車に夕暮れ時や雨の日の無灯火が多い。子どもの横断時の安全のために早めの点灯を願いたい。（大槌学園病院前担当）
- 今日から復興工事に伴い通学路が変更になった。初めが肝心なので子どもたちにきちんと指導した。みんないつも通りに右側をきちんと登校する。見ていて気持ちの良い光景でした。下校時も上級生（3 年生）が下級生にきちんと歩くように注意しながら帰った。いつもよりスムーズにいい感じでの下校となった。（吉里吉里学園マリンバンク町方担当）

### 【ふるさと大槌学講座】

「ふるさと大槌」への関心、親しみを深め、町の文化歴史の継承につなげている。

## 課題と今後の取組

- 放課後等の居場所づくりについては、単なる居場所にとどまらない、学習の場や体験活動の場としての開設が実現している。今後はこのことが、子どもたちの学力や自己肯定感といったことの向上とどのようにかかわっているのかについて調査を進める必要がある。また、そのことが本事業の改善につながると考える。
- 地域の方々学校教育への意識が高まっている。アンケートのほとんどが肯定的な意見であり、ボランティアを通して教育への理解が深まっていることがうかがえる。次は、このことの価値や意義を学校現場にどのように返し、「お手伝い」としてではなく、教育効果としての高まりとして見取る仕組みづくりを検討する必要がある。また、そのことが地域コミュニティの再生に大きくかかわっていくと考えている。